



# がどうだより

吟道賀堂流総本部 会報  
第4号 令和4年10月1日  
発行 吟道賀堂流総本部  
会長 礒部賀堂

## 姫路市長をお迎えし、第30回記念吟士権者決定大会 華々しく開催！！

9月11日(日) アクリエひめじ 中ホールにて感染防止対策を講じ開催することができた。

近畿本部、中国本部、京都本部からの総勢421名の参加者が集い、開会を宣言するファンファーレで始まり、各ランクの競吟、少年吟、高齢者吟、マスクの装着での吟詠を余儀なくされたが、全員の吟声が会場内に響き渡った大合吟、各本部の地域色を込めた構成吟と続き、最後の万歳三唱で幕を閉じた。



今回の大会では、初めての会場であることで、迷ったのではないかと思う。またメインスタジオでの、前・後半2班に分かれて黙食を徹底しての昼食は今までにはない対応となった。参加いただいた総本部の会員の皆様のご協力のお陰で新し



い会場での記念大会でしたが、コロナ感染者を出すことなく無事終了できた。本当にお疲れさまでした。(片岡賀弘蒼)

以下開催までの経緯を記します。

- ・R1/3 総会において令和2(R2)年に第30回吟士権者決定大会を姫路市文化センターで開催決定
- ・R1/10 第1回実行委員会 開催内容検討(創流85周年を兼ねて8月30日に開催決定)
- ・R1/12~R2/3 第2回~第4回実行委員会(各本部に大会協力金・構成吟等をお願いし、チラシ準備)
- ・R2/4 第5回実行委員会 コロナ蔓延防止の観点から令和3年に延期を決定
- ・R2/12 第6回実行委員会 創流85周年を外し、令和3年9月11日に開催決定
- ・R3/1~7 第7回~第13回実行委員会(プログラム、記念品(賀堂マーク入りエコバッグ)、カップ等準備)
- ・R3/8 第14回実行委員会 コロナ緊急事態宣言下での感染防止から令和4年に延期を決定
- ・R4/2 第16回実行委員会 令和4年9月11日にアクリエひめじ 中ホールにて開催決定
- ・R4/3~8 第17回~第21回実行委員会(会場視察、昼食場所の確保と感染防止対策徹底、簡易プロ準備)

## 吟道賀堂流の歴史(4)

昭和17年流祖逝去後は父利夫が二代宗家、桧垣賀陽・田村賀峰・小林賀誠の崇吟社が補佐役として、賀堂流再出発。昭和18年に呉、19年に姫路で追悼大会を開催。

戦後はGHQ(連合軍司令部)の政策で詩吟界は試練の時期を迎えたが、昭和21年戦後全国で初めて県連盟追悼詩剣大会を神戸で開催し兵庫県吟詠連盟が再建、賀堂流神戸吟詠会が参加、連盟三役の山村賀鳳会長、井川賀慧二部吟士権者が活躍したが、阪神淡路大震災で壊滅的打撃を受け近畿本部に併合された。

桧垣賀陽師は広島県内外の広域で指導を続け、各地大会に賀堂流を代表して参加。昭和27年日本吟詠総連盟が結成されると常任理事、副理事長を歴任。昭和32年に賀堂流が中心となり広島県吟詠連盟を結成、昭和34年に賀堂流中国本部結成。

田村賀峰師は小学校長勇退の昭和34年に活動を本格化し姫路朗吟会を再開。賀堂流碑を姫路護国神社に建立する準備を整えて昭和37年立柱式。昭和38年に賀堂流姫路朗吟会として県吟詠連盟加入、賀堂流碑を建立して除幕式挙行。(北海道~山口まで一門の寄付)。昭和39年姫路城修復完了と併せて「創流30周年記念全国吟道大会」を盛大に開催。吉田益三愛連会長、佐々木孝吾総連盟理事長、座親松翠筑前今様



田村賀峰師



桧垣賀陽師

宗家を始め全国から80余名の来賓を迎え、翌日は50余名の来賓を貸し切りバスにて流碑・姫路城他を案内、赤穂大石神社で奉納吟。教本(一)110頁「白鷺城」は来賓、瓜生田山櫻香雲堂吟詠会宗家この時の作。

(礒部賀堂)

## 総本部役員紹介(3)

| 会計部長  | 普及指導部長   | 事業部長   | 渉外部長   | 広報資料部長  | 流碑管理委員長   |
|---|--|--|--|---|---|
| 北 賀礼愁   | 小川賀淳豊  | 小田 賀烽  | 木山 賀堂  | 小島賀征篁   | 田中賀月峰   |
|  近畿本部<br>常任参与 |  近畿本部<br>常任参与<br>兵庫県連<br>理事 |  近畿本部<br>常任参与 |  近畿本部<br>副理事長<br>兵庫県連<br>常任理事 |  近畿本部<br>企画室 |  近畿本部<br>合吟部 |



## 近畿本部

### ポストコロナ兵庫県吟詠フェスティバル

兵庫県吟詠連盟主催、令和4年度兵庫県舞台芸術団体フェスティバル参加事業「ポストコロナ兵庫県吟詠フェスティバル」が、令和4年9月4日(日)午後2時30分開演で、兵庫県立芸術文化センター阪急中ホール(西宮市)において開催。

ポストコロナの夢は、ウィズコロナで動き出した経済活動は勿論のこと、スポーツ、文化、芸術等の各種イベントも又、対策を怠ることなく、委縮することなく進めて行きたいとの意向。



内容は、頼山陽生誕二百四十二年「頼山陽の生涯」構成吟を母と子の情愛や「日本外史」「日本政記」で綴られる。出演は歴代指導者の部吟士権有志・連盟幹部・昨年のふれあいの祭典合吟優秀団体。

賀堂流からの石井賀崇石会長の堂々とした吟詠、平山賀宝弓さんの華麗な吟詠、男女合吟選抜チームの迫力ある吟詠が会場を魅了した。

(小島賀征篁)

## 中国本部

### 本部特別研修会

我が国に「小学校開校記念日(5月21日)」が、京都にあるとは、ご存じでしたか?..去る、令和4年5月21日総本部普及指導部部長の小川賀淳豊先生を招聘して、一般会員(師範代以上)対象の「特別研修会」を企画。時あたかも5月21日(土)広島市東区民文化センターギャラリーにて。



コロナ対策として、各会に割当て制限を示し、総員50名が、胸膨らませて受講した「今様・俳句・和歌・漢詩」が対象。平成23年6月11日に吟詠法・譜節が、「総本部全体会議」で改正・統一されたが、中国本部は永年、故、檜垣賀陽師の詠法が、浸透されていた為、指導者を含めて修正は、難行であったことは否めない。各、受講感想が、若手会員から寄せられた。



「目から鱗が落ちた! 大変勉強になった」等々...

過日、第30回記念吟士権大会では、第1部門(小島)と第5部門(松本)で第3

位の入賞を獲得した。特に苦手な、俳句部門(松本)では、小川先生の吟を録音して何度も何度も聴き、詠い、修正して稽古した結果であったと喜びを隠し切れない。これは、伊藤会長を初め福嶋研修部長・石澤副部長もろ手を挙げて大讃辞! 今後も宗家に懇願して、特別研修会を継続して他本部に負けない吟士を誕生させる為に普及指導部長の小川賀淳豊先生に託したい!

中国本部 事務局長 宅重賀清輝

## 京都本部

### 全丹地区吟士権者決定吟詠・剣詩舞道祭

#### 3年ぶりに開催

去る7月17日(日)、福知山で京都府詩吟連盟全丹地区連絡会主催の「吟士権大会」(本年度で46回目)が3年ぶりに(新型コロナウイルス感染防止のため2年間中止)開催されました。

全丹地区連絡会には賀堂流京都本部のメンバーである牧水吟詠会が所属しており、牧水吟詠会からはシニアの部に9名、一般の部に6名、合吟1組が出吟され、シニアの部で大柿洋子さんが見事優勝されました。



## 吟と健康

### オーラル(お口)フレイルを予防しましょう!(4)

詩吟は、やっぱり素晴らしい!!

(以下読売新聞記事より)

人間が力む為には声帯を閉じることが大事です。真っすぐに立っている為には肺を風船のように空気をためて張った状態にする必要があります。

声帯が柱になるのですが、声帯の筋肉が衰えると空気が抜ける。体に力が入らず、よろけやすくなるのです。また食べ物を飲み込む際、気道に入らないように蓋をするのも声帯の役割、ここが緩むと誤嚥性肺炎のリスクも高まる「高齢者は一度衰えると戻すのが難しい。毎日朗読することは予防になり、立って背筋を伸ばして読むのが良い。

高い声と低い声では別の筋肉を使うので抑揚をつけて読むとバランスよく鍛えられます。(村山賀聖蓉)



賀堂流ホームページ: <https://gadou.info>

←スマホで賀堂流ホームページへ

担当 吉永賀鈴、片岡賀弘蒼、村山賀聖蓉

連絡先 吉永賀鈴 TEL:079-298-5107

E-mail: garei\_yoshi@yahoo.co.jp